



第30回

# 世界禁煙デー・宮城フォーラム



入場無料  
参加申込み不要

■日時：2024年5月26日(日) 開場13:30 開演14:00~16:30

■場所：藤崎一番町館 3階イベントスペース

■主催：特定非営利活動法人 禁煙みやぎ

■後援：宮城県 仙台市 せんだい男女共同参画財団 宮城県医師会 仙台市医師会  
宮城県結核予防会 宮城県歯科医師会 仙台歯科医師会 宮城県薬剤師会  
仙台市薬剤師会 宮城県看護協会 宮城県栄養士会 バイタルネット 宮城県女医会  
宮城県助産師会 全国健康保険協会宮城支部 国際ノタ26地区仙台ノタクラブ  
河北新報社 日本禁煙学会

■認定：日本禁煙学会認定5単位 禁煙サポーター

宮城県薬剤師会認定禁煙支援・指導薬剤師更新研修

お問合せ先

【事務局】 〒981-1505 宮城県角田市角田字田町123 金上病院内

TEL 0224-63-1032 <https://kinenmiyagi.org>

---

**テーマ 宮城・仙台を美しいイエローグリーンに!**  
**～分煙では受動喫煙は防げない～**

---

総合司会 **安藤 由紀子** 宮城県医師会常任理事 金上病院  
禁煙みやぎ副理事長

**13:30 ◎開 場**

**14:00 ◎開 演**

開会挨拶 **山本 蒔子** NPO法人禁煙みやぎ理事長

**14:10～14:55**

◎基調講演

座 長 **山本 蒔子** NPO法人禁煙みやぎ理事長

「禁煙をめぐるいくつかの問題点 禁煙は愛」

講 師 **作田 學氏** 一般社団法人日本禁煙学会理事長

**14:55～15:05 休 憩**

**15:05～16:00**

◎シンポジウム

「イエローグリーンキャンペーンと喫煙対策」

座 長 **黒澤 一氏** 東北大学環境・安全推進センター  
東北大学大学院医学研究科産業医学分野  
教授・統括産業医 禁煙みやぎ会員

講 師 **佐藤 和宏氏** 公益社団法人宮城県医師会会長

講 師 **安藤 健二郎氏** 一般社団法人仙台市医師会会長

講 師 **細谷 仁憲氏** 一般社団法人宮城県歯科医師会会長

講 師 **金田 早苗氏** 一般社団法人宮城県薬剤師会副会長

**16:10～16:30 総合討論**

**16:30 ◎閉会挨拶 齋藤 泰紀** 宮城県結核予防会副理事長  
禁煙みやぎ副理事長

## イエローグリーンキャンペーンの発展を目指して

齋藤 泰紀 宮城県結核予防会副理事長  
NPO禁煙みやぎ副理事長

### 日本のこれからの喫煙対策

健康日本21は本邦の健康対策を主導する方針・方策を示すものですが、2020年4月からの健康増進法改正により、屋内の受動喫煙対策はある程度進みました。しかし、20歳以上の喫煙率は16%台で、目標値の12%には遠く及びませんでした。

そこで、2024年度からの第三次健康日本21の喫煙対策の目標のトップとして、20歳以上の喫煙率12%を再度目標としました。問題解決の方向性を禁煙のさらなる徹底とした、と言ってよいでしょう。

### 喫煙に対する国民の意識の動向

2023年における、国立がん研究センターによる世論調査では以下の点が報告されています。

- ・20歳以上全体で、受動喫煙で不快な思いをした場所については、「路上」という回答が最も多く64.1%でした。続いて、「屋外喫煙所の近く」が34.3%で、屋外の公共空間が問題となっています。
- ・受動喫煙を防ぐための配慮として喫煙者では、「周囲に人がいる場所では喫煙しない」と回答した人が46.0%、「こどもや患者等の特に配慮が必要な人が集まる場所や近くにいる場所等では喫煙しない」が45.7%、「こどもが同乗する自家用車内では喫煙しない」が41.7%と、いずれも十分な配慮がされているとは言えない結果でした。

### 宮城県の現状と今後の方向性

受動喫煙防止対策は法改正で前進したものの、勾当台公園内の多数喫煙の問題にみるように、禁煙みやぎ およびマスコミ等による問題提起、仙台市からの配慮要請にもかかわらず、十分な改善がみられないままです。

2019年の宮城県では、成人の喫煙率は男性33.3 % 女性 9.5 % 男女計21.0%で全国4位とワースト5に入る値でした。習慣的に喫煙する者のうちタバコをやめたいと思う者の割合は 男性21.7% 女性40.0% 合計25.3%と報告されています。私たちは、少なくともこの25%の方々の禁煙を支援していく使命があるといえるでしょう。

### イエローグリーンキャンペーンに期待すること

イエローグリーンキャンペーンは、2020年頃から広がり、「受動喫煙をしたくない させたくない」という気持を表現するものとして、5月31日の世界禁煙デーにちなんで一定期間のライトアップとして始まりました。全国に広がり、リボン、シール、バッチ、川柳大会など幅広い活動で喫煙対策の必要性を社会全体に広げていこうという推進力になっています。

前述のように、健康日本21の第三次計画に掲げられた喫煙率12%以下にという目標達成のためには、分煙の推進ではなく、喫煙者の健康を守るためにも禁煙につながるような受動喫煙防止活動が重要です。また、タバコを止めたい喫煙者のための禁煙支援を、一部の医療関係者・医療機関の努力のみではなく、行政・健診機関・教育機関・各種団体・健康をめざす企業・市民等が一致団結して、生活空間の身近なところで構築していく運動となるよう、長期的視点で持続的に進めていくことが肝要と考えられます。

## 禁煙をめぐるいくつかの問題点 禁煙は愛

作田 學 一般社団法人 日本禁煙学会理事長

1. 2024年WHO世界ノータバコデーのスローガンは、「子どもと若者をタバコ産業の売り込み活動から守ろう」です。
  - 1-1 子どもと若者をタバコ産業の売り込み策動から守ろう  
今年の世界ノータバコデーでは、子どもと若者に有害なタバコ製品を売りつけるタバコ産業の策動を止めさせることに注力します。
  - 1-2 なぜタバコ産業は子どもと若者をターゲットにするのか？  
タバコ産業にとって、タバコ製品の法的規制を減らし、子どもと若者がどこでも安くタバコ製品を買えるようにすることが死活を左右します。  
タバコ産業は、子どもと若者に強力なニコチン依存製品を売り込む策動を続けています。  
2024年の世界ノータバコデーは、すべての国の政府とタバココントロールを担う人々が、次世代に対するタバコ製品の売り込みを止めさせ、タバコ産業に製造物責任を果たさせる取り組みを強めることを呼びかけます。
2. 加熱式タバコのハームリダクションはありません。
  - 2-1 加熱式タバコあるいは電子タバコで禁煙に成功する割合は低いのです。
  - 2-2 有害物質の種類によっては加熱式タバコに多く含まれています。
  - 2-3 加熱式タバコにも紙巻きタバコと同等のニコチンが入っていて依存症が続きます。
  - 2-4 煙が見えにくい、臭いも少ないからといっても受動喫煙はおこります。
  - 2-5 紙巻きタバコと両方使っていると、肺疾患になりやすいのです。
  - 2-6 加熱式タバコの吸い殻も小さいので子どもには非常に危険です。
  - 2-7 加熱式タバコの危険性は95%少ないというのはタバコ産業が作ったウソです。
3. 禁煙は愛です。
  - 3-1 禁煙は身体への愛、周囲への愛、子どもへの愛でもあります。
  - 3-2 きっぱりと禁煙をするに越したことはありません。
4. SDGs と国連プラスチック条約を大切に
  - 4-1 SDGs における持続可能な開発目標は2030年までにすべての国と地域が達成すべき17の開発目標で、3aにはタバコ規制(FCTCの強化)が明記されています。
  - 4-2 今年発足する予定のプラスチック条約の大きな柱にはタバコのプラスチック禁止も検討されています。
5. 受動喫煙の防止のため、YGキャンペーンを拡げましょう。  
日本中でYGキャンペーンが広がっています。ある市からも、ライトアップをしたいのだが、黄緑色は使って大丈夫かとお尋ねがあったほどです。

## イエローグリーンキャンペーンと喫煙対策

### 宮城県医師会における禁煙推進活動と宮城県イエローグリーンキャンペーン推進会議

佐藤 和宏 公益社団法人 宮城県医師会 会長

宮城県医師会は、県民の健康を守るため禁煙推進活動を続けて参りました。

2018年に“望まない受動喫煙防止”を目的とする改正健康増進法が成立いたしました。その際には例外や特例を設けることのない受動喫煙防止対策の実践に向けて署名活動を行いました。また加熱式タバコに対する誤った情報や宮城県の喫煙率が高いことなどから、同年7月加熱式タバコも含めたすべてのタバコに対する「禁煙宣言」を行いました。同時に2種類の禁煙推進ポスターを翌年には禁煙宣言PRうちわを作成しました。また2019年5月第25回世界禁煙デー・宮城フォーラム「禁煙宣言はオール宮城で!」のシンポジストとして、参加し取り組みを発表しました。2020年にはSTOP SMOKINGクリアファイルを作成。同年改正健康増進法全面施行を前に、宮城県議会に対し宮城県議会棟の屋内全面禁煙を要望し実現することが出来ました。2021年3月には、勾当台公園へのJTと共同による喫煙所設置案に対し、県民・市民の健康増進と望まない受動喫煙をなくすために、喫煙所設置の撤回を強く要望しました。その結果、禁煙みやぎを始めとする他団体からの要望も有り計画は凍結されました。

イエローグリーンは「受動喫煙をしたくない・させたくない」という気持を表す色です。宮城県医師会では、福島県医師会の呼びかけにより2023年世界禁煙デーと禁煙週間に受動喫煙防止のためのイエローグリーンライトアップキャンペーンを実施いたしました。県内の郡市医師会にも呼びかけたところ、県内各地でライトアップが実施されました。日本禁煙学会や禁煙みやぎの皆様もこの活動を進めており、同年7月に禁煙みやぎが開催した第22回タバコ対策ネットワークみやぎ・せんだい連絡会議においては、ライトアップに参加しなかった団体もその活動を知りぜひ来年は参加したいと好評でした。その後10月に宮城県医師会環境保健委員会が開催され、宮城県医師会が種々の団体や組織に働きかけて連帯して率先して積極的に本キャンペーンを推進していくため、様々な企画を進めることとなりました。12月には、地方自治体や医療関係及び保健衛生の各団体・スポーツ団体・メディア等の賛同ご参加をいただき「宮城県イエローグリーンキャンペーン推進会議」を立ち上げました。その後会議を重ね、「イエローグリーンキャンペーン2024」キャンペーングッズとしてポスター、チラシ、リボンバッチ、ストラップ、ティッシュ等を作成いたしました。そしてキャンペーングッズの配布やリボンを始めとするイエローグリーンを身に付ける活動、各種メディアにおける啓発PR活動、昨年にも増して多くの地域でのライトアップの実施など推進会議全体で取り組み、本キャンペーンの輪が広がっております。

本日のフォーラムのテーマにありますように、イエローグリーンキャンペーン2024のポスター、チラシにも「受動喫煙は分煙では防止することはできません」と記載しております。これからも分煙の推進ではなく、県民の健康を守るためにも禁煙につながるような受動喫煙防止活動を皆様とともに推進していきたいと考えております。本年、新しいSTOP SMOKINGのクリアファイルを作成いたしましたので、会場で配布させていただきます。禁煙推進にお役立ていただければと存じます。

## 宮城・仙台を美しいイエローグリーンに! ～分煙では受動喫煙は防げない～

安藤 健二郎 一般社団法人 仙台市医師会 会長

みなさん、イエローグリーンキャンペーンはご存じですか？

ピンクやブルー、グリーンなど色をシンボルにしたキャンペーンはさまざまありますが、イエローグリーンキャンペーンは受動喫煙防止のキャンペーンです。「近くでタバコを吸って欲しくないなあ」という気持ちをイエローグリーンのリボンやシールなどを身に付けて表現する方法をみなさんに知っていただきたいと思います。

みなさんがご承知のようにタバコの煙には有害な物質がたくさん含まれます。多くのがんの発生を増やしますし、その他、心臓や肺の重大な病気の原因になります。喫煙者だけでなくタバコの煙(副流煙)や喫煙者の呼気にも有害物質は多く存在し、周りの人がそれを吸ってしまうこと(受動喫煙といいます)で発がんのリスクが増えることがわかっています。最近吸う人が多くなった加熱式タバコも、決して安全ではないことがわかってきました。

多くの方々にイエローグリーンの意味を知ってもらうことが必要です。「望まない受動喫煙」の気持ちをやさしい黄緑色でそれとなく伝え、周りの人が気づいて近くでタバコを吸わない配慮をする、というマナーが根付いていくように、みなさんと一緒にこのキャンペーンを進めていきたいと思います。

仙台市医師会では昨年からのイエローグリーンキャンペーンの推進に協力しており、厚労省が定めた禁煙週間(5月31日から6月6日)に合わせて、仙台市医師会館と仙台市医師会附属看護専門学校や市内の病院・診療所でライトアップを行いました。また、仙台放送のご協力を得て、同期間に仙台放送電波塔(仙台スカイキャンドル)もイエローグリーンの光に彩られました。今年はより多くの施設が参加し、市内のあちこちが黄緑色のライトに映し出されることになるでしょう。

受動喫煙予防にはイエローグリーンキャンペーンの他にも取り組むべきことがあります。こどもや妊婦さん、身体の弱いお年寄りなどが安心してくつろげるように公園は禁煙にするべきです。とくに近く予定されている勾当台公園の整備計画においては公園内の完全禁煙を訴えていくつもりです。公園は解放された空間といえども、分煙対応では受動喫煙の害を完全に防ぐことはできません。仙台市民の憩いの場をタバコの煙で汚してはいけません。

また、タバコの健康被害を考えれば禁煙そのものがより効果的です。タバコをやめようと考えている方々の気持ちをしっかり支え、禁煙治療を成功につなげることが仙台市医師会にとって大変重要なテーマです。市内の多くの病院や診療所に禁煙外来が開設されています。

禁煙の意思がある方はぜひこれらの禁煙外来を受診していただくようお願いいたします。

## イエローグリーンキャンペーンと喫煙対策

細谷 仁憲 一般社団法人 宮城県歯科医師会 会長

宮城県歯科医師会の禁煙推進への取り組み状況について、第25回本フォーラムでのシンポジウムに続いて報告させていただきます。

報告の構成は

- 1、本県の禁煙推進に中核となって貢献されてきた、団体・組織への本会の対応経過状況
- 2、パンフレット、リーフレット等を通じての本会会員、歯科受診患者、住民等への対応状況
- 3、喫煙と歯と口腔の健康に関わる調査・研究結果
- 4、本会立宮城高等歯科衛生士学院の取り組み状況
- 5、本会会館の取り組み状況
- 6、本会の今後の取り組み

で前回と同じにしてみました。そのことによって、前回以降この5年間を振り返ることになり、コロナ禍も影響し、本会の取り組みが停滞していたことに気付かされた次第です。

本会は今回のフォーラムでのシンポジウムを機会に今後、会員、歯科受診患者等への喫煙に関するアンケートを行い、会員の喫煙、会員歯科医療機関の敷地内全面禁煙実施、歯科受診患者の喫煙、会員歯科医療機関における禁煙指導実施等の現状を把握し、従来よりも積極的に会員をはじめ歯科医療従事者、歯科受診患者の「禁煙」、「受動喫煙防止」の意識を高め、歯科疾患、内科疾患の発症、重症化予防を図り、健康の保持・増進、健康寿命の延伸に寄与すべく取り組んでいきたいと考えています。

## 宮城県薬剤師会のイエローグリーンキャンペーンと喫煙対策

金田 早苗 一般社団法人 宮城県薬剤師会 副会長

薬剤師、特に地域の薬局薬剤師は、住民の健康を支えていく役割があり、健康寿命の延伸を目指し、健康社会実現に協力し、地域住民の健康サポートをしている。また、学校薬剤師として子供たちへの健康に関する啓発活動も行っている。これらの活動を多職種・他団体との連携ですすめ、地域の健康づくりに貢献したいと考えており、喫煙対策にも取り組んできた。

これまでの宮城県薬剤師会(以下県薬)の禁煙の取り組みを紹介する。2001年「健康日本21」の活動に積極的に参画するため、県薬としてのプロジェクト会議を設置。その活動の中でたばこ対策専門部会をつくり、禁煙支援・指導薬剤師認定制度の創設や薬剤師の禁煙指導のテキストの作成などを行った。2002年からは、みやぎ21健康プラン推進協議会に県薬から参加している。2014年、2015年には健康情報拠点事業・禁煙支援事業を行った。

禁煙支援・指導薬剤師の活動としては、来局する患者や地域住民への禁煙啓発、禁煙相談、喫煙者への情報提供、禁煙外来患者への服薬指導などである。地域では、「薬と健康の週間」、地域の健康まつりや薬物乱用防止活動の中での禁煙への広報、学校での子供たちへの禁煙啓発などを行っている。

特に、仙台市薬剤師会は、喫煙対策に積極的に取り組んでいる。2018年から「スカイブルーキャンペーン～きれいな空気を～」をキャッチフレーズとして、禁煙・受動喫煙防止啓発活動を行っている。「受動喫煙防止宣言施設」登録への呼びかけは、県薬としても取り組んでいるが、仙台市内の登録薬局が多くなっている。今年度からは仙台市薬剤師会も県薬と共にイエローグリーンキャンペーンに取り組むを行うこととしている。

県薬のイエローグリーンキャンペーンの取り組みとしては、ホームページや広報誌での県内薬局への広報だけでなく、ラジオを使つての市民への広報も行う予定である。

県薬は、今後も地域の健康を守るため、医師会をはじめ、他団体・多職種と協力して、喫煙対策に取り組んでいきたいと考えている。